

evolution

前歯部インプラントの最新プロトコル

現代デンタルインプラントロジーへのアプローチ

1. 審美性と軟組織の検討

- ・前歯部単独インプラント修復に対する審美的パラメータ
→Research: 審美的パラメータ
- ・インプラント周囲軟組織の特徴
→Research: インプラント周囲軟組織

2. インプラント、アバットメントおよび補綴デザインに対する生物学的影響

- ・プラットフォームシフトコンセプトの臨床プロトコル: 遅延インプラント埋入
- ・プラットフォームシフトコンセプトの臨床プロトコル: 即時インプラント埋入
→Research: プラットフォームシフティング
- ・プラットフォームシフトコンセプトの臨床結果
→Research: 取り外しによる影響

インプラント周囲の自然な審美性

3. 理想的な三次元的インプラント埋入

- Research: 三次元的インプラント埋入
- ・一般的な考え方
- ・ガイドドサージェリー

4. 自然な軟組織カントウアの形成

- ・骨移植
- ・軟組織移植術
→Research: 軟組織移植のドナーサイト
→Research: 組織移植の臨床結果
→Research: ソケットグラフト
- ・プロビジョナルレストレーションを用いた補綴的な軟組織カントウアの形成
→Research: インプラントアバットメント
- ・軟組織の審美性を高める矯正治療
→Research: 矯正治療

5. 最終修復物のためのラボとのコミュニケーション

- ・印象採得
- ・アバットメントを外さない印象法
- ・三次元的エマーゼンスプロファイルと歯の形態
- ・色調とコーピングの選択
→Research: 最終クラウンのマテリアル
- ・アバットメント素材の選択
→Research: 蛍光性

6. 最終修復物

- Research: 最終セメント合着
- ・最新のコンセプト

evolution
前歯部インプラントの最新プロトコル

NEW Bible

evolution
前歯部インプラントの最新プロトコル

Iñaki Gamborena



Markus B. Blatz

著 : Iñaki Gamborena /
Markus B. Blatz

監訳 : 和泉雄一 / 山崎長郎

監訳者 : 和泉 雄一
Izumi Yuichi東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野・教授
東京医科歯科大学歯学部卒業監訳者 : 山崎 長郎
Yamazaki Masao東京都開業・原宿デンタルオフィス
東京歯科大学卒業

evolution

前歯部インプラントの最新プロトコル

著: Iñaki Gamborena / Markus B. Blatz
監訳: 和泉雄一 / 山崎長郎

きりとり線

注文書

evolution 前歯部インプラントの最新プロトコル

冊注文します。

モリタ商品コード: 805686

●お名前	●貴医院	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	

支店・営業所

2015-10

インプラント治療を追究し続けてきたIñaki Gamborena氏とMarkus B. Blatz氏によって執筆された、前歯部領域における総合的なインプラント治療専門書の翻訳本である。

アバットメントの歯肉貫通部の立ち上がりやヒーリングアバットメント形状の考察、口蓋側ではなく本来歯根が存在していた位置への埋入とそれを実現する歯肉操作のテクニックは特筆に値する。また、治療計画段階での矯正治療や隣在歯のマネージメントを見るだけでも明日のインプラント臨床の一助となる。

本書は、「前歯部審美領域におけるインプラント治療」というもっとも難易度の高い歯科臨床に対する新しいバイブルである。

●サイズ:A4判変型 ●444ページ ●定価 本体42,000円(税別)



クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 http://www.quint-j.co.jp/ e-mail mb@quint-j.co.jp



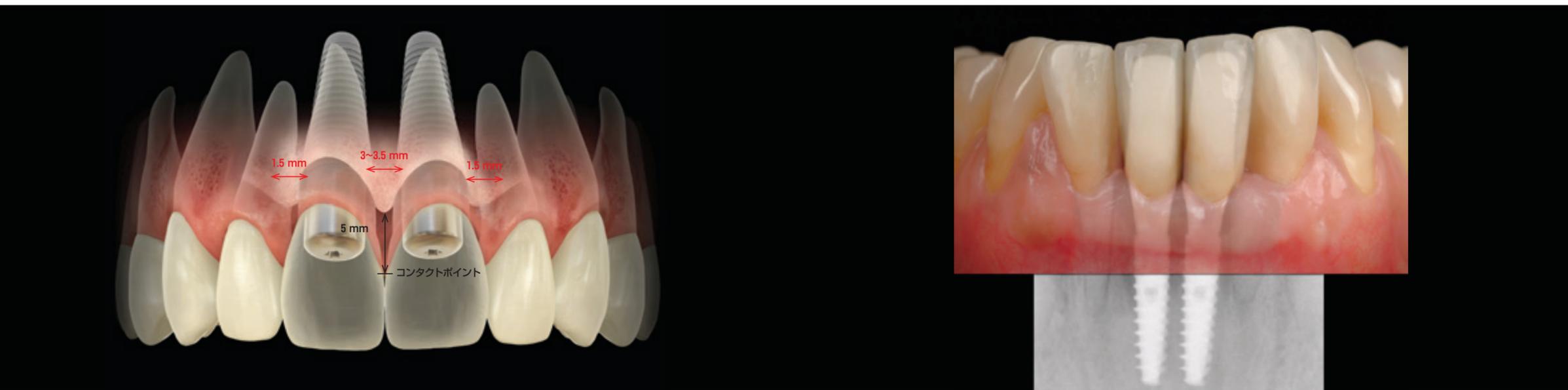
2本の近接し過ぎたインプラント埋入の審美的結果

111が歯の形態の過度な欠損のため抜歯された。この種の治療では典型的だが、硬・軟組織の吸収を少なくするためにステージ法の即時インプラント埋入を続けて行った。まず、11にインプラント埋入を行った。しかし、このインプラントは近心に傾き過ぎていて、6ヵ月後に行う2本目の11へのインプラント埋入が困難になった。その結果、インプラントどうしが近接してしまった。



下顎中切歯

歯周炎のため111が抜歯となった。即時インプラント埋入のプロトコルに従い、2本のNobelActive 3.0インプラントを埋入し、CTGのためのスペースを最大にするためにカスタムのプロビジョナルヒーリングアバットメントを連結した。



最終修復物はプロビジョナルレストレーション装着後1年に装着された。術後7年の写真とデンタルX線写真では、隣接した乳頭の大きな吸収と平坦化が認められる。



最終ジルコニアアバットメントを暫間修復時の初日に連結した。以降、外すことなく満足できる結果となった。